

キリスト教学専修

第二演習・2018年度前期******A. 予定** (同学年は五十音順)

第12演習室:

火曜日4時限目・1人 (+5時限目も可能)

60分の発表+30分の質疑応答

担当者は資料を準備の上、発表。パワーポイント使用可。

月日	担当者
4月17日	
5月15日	
5月22日	
5月29日	
6月5日	
6月12日	
6月19日	
6月26日	
7月3日	
7月10日	
7月17日	
7月24日	

追加の発表を希望する人は、火曜日4時限目(キリスト教学研究室)に発表を設定する。

B. 関連するプログラム

1. 研究室紀要の刊行：3月刊行
 - ・第二演習での発表 → 論文、書評、サーベイ
 - ・特別研究発表会：年2回、9月初旬と2017年3月中旬
 - ・学会発表の予行+書評・サーベイ
 - ・原則的には：大学院生全員が参加（博士後期課程だけでなく）

C. その他

動向と総括：

「3・11 東日本大震災・福島原発事故」とキリスト教研究

（日本基督教学会『日本の神学』57号、2018年9月、掲載予定）

「3・11」（二〇一一年）の東日本大震災は、福島原発事故を伴うことによって、日本の災害史上、きわめて深刻な事例として記録されることになった。日本列島は、歴史的記録がたどれるだけでもこれまで数多くの災害に見舞われてきたが、しかし、東日本大震災では、原発事故と連動することによって、復興への道のりはこれまでの災害とは質的に異なりきわめて険しいものとなることが予想される。キリスト教あるいはキリスト教研究としても、「3・11」には多くの関心が寄せられ、この七年間に論者が実際に読むことができた文献だけでもかなりの数におよんでおり——もちろん網羅的ではない——、研究動向を分析し一定の総括を行うことは十分に可能と思われる。以下において、関連書籍を概観し、いくつかの特徴的動向について代表的な書籍を紹介する。そして、今後のキリスト教研究において取り組むべき課題を展望し、本稿を結びたい。

関連文献の概観——キリスト教研究は3・11をどう論じたか

研究の諸動向から

この七年間を振り返って